

より良い学校教育の実現に向けて
「松田町の学校教育制度等のあり方に
関する検討委員会」経過報告

今月は、本紙3月号学びの広場掲載の、「町立学校の校舎建設について」の中でお知らせしました、「松田町の学校教育制度等のあり方に関する検討委員会（以下、「検討委員会」）」のその後についてお伝えします。

昨年11月の総合教育会議（町長と教育委員にて構成）において、将来の子どもを取り巻く教育環境や、国が新たに制度化した「小中一貫校」などの議論を踏まえた上で、今後の町立学校の校舎建設について検討を進める必要があるという結論に至りました。

そこで教育委員会では、知識経験者、学校や保護者の代表などによる検討委員会を設置し、現行の学校制度を含めた小中一貫校および義務教育学校の制度や学校教育のあり方について、これまで5回にわたりました。

◇子どもの身につけたい力
（自立・創造・共生）を基本に、「たくましく未来を切りひらく力」の育成

学びの広場 2018

【問い合わせ】

教育課 学校教育係 □(83)702-3
生涯学習係 □(83)702-1

- 確かな学力を身につけ、自ら進んで学び続ける子
- 自らの可能性に向かって粘り強くチャレンジする子
- 「いのち」を尊び、優しさや思いやりのある子
- 人や自然との関わりを大切に、広く社会に貢献できる子
- 人権感覚や国際感覚豊かで、世界を舞台に活躍できる子

また、地域とのつながりの中で学校教育を進めること

文化財探訪

矢倉沢往還 26

文化財保護委員

草門 隆

「当町内の矢倉沢往還」に対する 読者からのご意見について

「当町内の矢倉沢往還」につ

いて、個々の見どころを写真付

て解説した『歩いてみよう松

田の歴史』（初版 平成24年松

田町発行）の中のサブタイトル

「青山街道本道争いの道を偲

ぶ」（筆者担当）の内容につい

て、隣町の郷土史家のご意見で

は、『矢倉沢踏切』という名をも

つて、矢倉沢往還とは言えな

い』と言うことです。確かに、

これを否定するつもりはありませんし、他の人もそのような想

いもあるのではないかとさえ感

せんし、他の人もそのような想

いもあります。

しかし、『まつだの地名』

（松田町発行）の中で「矢倉沢

踏切」の項に「御殿場線が矢倉

沢往還を横切る踏切」とあります。加えて、本連載の「松田惣

領・庶子境道コース」（平成28

年3月号、5月号）に詳細を記

した通り、御殿場線松田駅周辺

の多くの踏切名を現認し、個人

的見解として「踏切のある場所

の字名か、近くにある歴史または公的建物等の名を引用している」と言うことを見出しがたが、

この見解を補強すべきことがで

きました。

それは3年前、この往還の矢

ます。

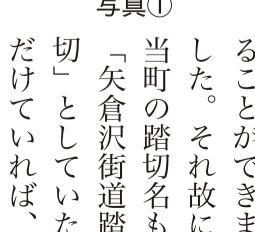
次回は本連載の最終回となり

ます。

（写真①）



写真①



写真②

検討委員会における検討内容

■町が目指す子ども像

少子高齢化の進行、急速な情報化や技術革新、グローバル化の進展など、予測困難な時代を生き抜く子どもたちには、社会の変化に主体的に向き合い、進んで学び、周りと積極的に関わり合う中で、一人一人が自らの可能性を最大限に發揮してよりよい社会と豊かな人生を切りひらいていく力が求められている。

6月中・下旬に、中間でのパブリックコメント（意見募集）も予定していますので、ぜひご意見をお寄せください。

（松田町発行）の中でも、「矢倉沢踏切」の項に「御殿場線が矢倉沢往還を横切る踏切」とあります。加えて、本連載の「松田惣領・庶子境道コース」（平成28年3月号、5月号）に詳細を記した通り、御殿場線松田駅周辺

の表示の設置団体は「NPO富士山御殿場ガイド・御厨（みくり）の風」（写真②）です。

これは3年前、この往還の矢

第2回 古文書講座「松田町の古文書を読もう」

町の古文書から時代背景を読み取ります。初回は「江戸時代の村の古文書」をテーマに行つたところ、大変に好評でした。歴史に興味のある方は、ぜひご参加下さい。

6月9日（土）午前10時～11時30分
町民文化センター 展示ホールにて
講師：神奈川県立公文書館 上田 良知さん

【申し込み】教育課 生涯学習係 □(83)702-1